

めざせ 1 級！ 英語上級者への道 ～Listen and Speak II～

第 7 回 モールス信号

日本語訳

■ Dialogue for Introduction

E: やあ、テツ。ヨーロッパへの旅行中、たくさん写真をフェイスブックにあげてくれてありがとう。まるで、君と一緒に旅をしているように感じたよ。

T: そうだね。ソーシャルネットワークを使えば、僕らはほとんど瞬時にやり取りができる。そこが、昔ながらの郵便の時代とは大きな違いだ。

E: その通りだ。でも、テツ、ここに至るまで合間を埋めてくれた大切な通信技術がいくつかあったよね。例えば「SOS」という頭字語の始まりを知ってるかい。

T: ああ。トン、トン、トン、ツー、ツー、ツー、トン、トン、トンだ。それって、Samuel Morse が 1836 年に開発した電信符号方式で表される最も有名な頭字語の一つだね。そのシステムはのちに無線通信でも使われたんだ。「Save Oh Save(助けて、大変だ、助けて)」あるいは、多分「Save Our Souls 我らの魂を救いたまえ」とか、もともとの意味について議論が分かれているけどね。しかしだよ、エドワード君、この遭難を表わす信号には、もう一つ前のものがあったんだ。わが友よ、それを知っていたかい。

E: もちろん知ってるとも。もともとの符号は「CQD」だよ！ たぶん「Come quickly; Distress(早く来て。遭難)」の意味だったかもしれないね。でも、その符号を示すのに使われる短点と頂点は長すぎて、それで…

T: おっと待った！ この後のレッスンについて秘密を早く洩らしすぎると、僕の方が本物の遭難信号を出すことになっちゃうよ。リスナーの皆さんに自分自身で今回の文を体験する機会を与えよう。

E: いい考えだね。今月の学習開始の合図は信号で送ることにしよう。

T&E: ピ、ピ、ピ…。ピ、ピ。

■ Listen to the passage and answer the questions that follow.

モールス信号 (2013 年度第 1 回 1 級 E No.21, No.22)

モールス信号は、それぞれ長点と呼ばれる長い符号と短点と呼ばれる短い符号の組み合わせを使う符号体系であり、それで文字を表わすことができる。例えば、一つの長点と二つの短点は文字Dを表すし、一方、一つの短点と二つの長点はWを表す。モールス信号は初期の無線通信で広く使われたが、それは言語音声(発話)がまだ伝送できなかったからだ。無線で話をするのが可能になった後でも船舶や飛行機はモールス信号を使い続けた。発話が伝送されない時、例えば、悪天候の状況が電波妨害を引き起こすような時でも、モールス信号は伝送されることができたというのが、その主な理由だ。

モールス信号は緊急時とくに役に立った。初めは、船舶が危うい状態の時 CQD という文字が助けを求めるのに使われた。しかし、これでは長かったので普及しなかった。1906 年に、より短く、簡単に認識できる SOS が、これは三つの短点、三つの長点、そして三つの短点で表されるのだが、国際遭難信号として採用された。

【質問】 次の2つの質問に、それぞれ30秒以内で答えてください。

No.1 なぜモールス信号は無線による発話の伝送が可能となったあとも依然として使われていたのか。

No. 2 なぜ CQD という符号は使用されることが無くなったのか。

■Let's study vocabulary and expressions

日本語を聞いて、エドワードのあとについて繰り返してください。

1	記号	code
2	モールス信号	Morse code
3	長点、長音記号	dash
4	短点	dot
5	～を意味する	represent ～
6	伝送する	transmit
7	妨害	interference
8	当初は	initially
9	～を呼び求める	call for
10	誰にも共通する	universal
11	見分けのつく	recognizable
12	採用する	adopt
13	救難連絡	distress call

■Listen to the passage and once more answer the two questions that follow.

モールス信号 (2013年度第1回 1級E No.21, No.22)

モールス信号は、それぞれ長点と呼ばれる長い符号と短点と呼ばれる短い符号の組み合わせを使う符号体系であり、それで文字を表わすことができる。例えば、一つの長点と二つの短点は文字Dを表すし、一方、一つの短点と二つの長点はWを表す。モールス信号は初期の無線通信で広く使われたが、それは言語音声(発話)がまだ伝送できなかったからだ。無線で話をするのが可能になった後でも船舶や飛行機はモールス信号を使い続けた。発話が伝送されない時、例えば、悪天候の状況が電波妨害を引き起こすような時でも、モールス信号は伝送されることができたというのが、その主な理由だ。

モールス信号は緊急時にとくに役に立った。初めは、船舶が危うい状態の時 CQD という文字が助けを求めるのに使われた。しかし、これでは長かったので普及しなかった。1906年に、より短く、簡単に認識できる SOS が、これは三つの短点、三つの長点、そして三つの短点で表されるのだが、国際遭難信号として採用された。

【質問】 次の 2 つの質問に、それぞれ 30 秒以内で答えてください。

No.1 なぜモールス信号は無線による発話の伝送が可能となったあとも依然として使われていたのか。

No. 2 なぜ CQD という符号は使用されることが無くなったのか。

■Repetition and Interpretation Drill

英文がポーズ付きで読まれます。また日本語の訳が流れます。

- 1) ポーズの間に英語をリピートしましょう。きちんとリピートできるようになるまで何度も練習しましょう。
- 2) 聞きながら、ポーズの間に日本語に通訳しましょう。モデルの日本語が流れる前に、自分の訳を言い終えることができるように、何度も練習しましょう。
- 3) 英文が聞こえるのと同時に、シャドーイングをしてみましょう。さらにポーズの間に日本語に通訳しましょう。

モールス信号

モールス信号は、長い符号と短い符号の組み合わせを使う符号の体系で、それらの符号は長点、短点と呼ばれ、この体系は文字を表わすためのものである。

例えば、一つの長点と二つの短点は、文字Dを表わす。

一方、一つの短点と二つの長点はWを表す。

モールス信号は初期の無線通信で広く使われた。

というのも、発話がまだ伝送できなかったからだ。

無線で話をするのが可能になった後も

船舶や飛行機はモールス信号を使い続けた。

これは主にモールス信号は伝送されることができたからだ。

発話が伝送されない時でも。

例えば、悪天候の状況が電波妨害を引き起こすような時でも。

モールス信号は緊急時にとくに役に立った。

初めは、CQD という文字が助けを求めるのに使われた。

船舶が危うい状態の時。

しかし、これは長くかかるものだった、それで普及しなかった。

1906 年に、より短く、簡単に認識できる SOS が、

三つの短点、三つの長点、そして三つの短点で表される SOS が、

国際遭難信号として採用された。

■Model answers

解答例を聞いて、自分の答えと比べてみてください。

T: さて、エドワード、君の答えはどうだろう。1 番「なぜモールス信号は無線による発話の伝送が可能となった後も依然として使われていたのか」

E: 発話の伝送信号が理解困難であるような悪天候の中でも、伝送が可能であるという利点があったからモールス信号は依然として使われた。

T: ありがとう。2 番「なぜ CQD という符号は使用されることが無くなったのか」についてはどうだろう。

E: 「CQD」という文字は伝送するのに時間が長くかかり過ぎたので、広く普及することにはならなかった。

T: ありがとう。

■Challenge 1

T: さて、エドワードが話をします。賛成の意見あるいは反対の意見を言ってください。最低 30 秒は話し続けるようにしましょう。

E: モールス信号の使用はなぜ無線通信の到来とともに打ち切られなかったのか。煎じ詰めれば、無線は符号ではなく日常使用する言語を用いて、より細かい緊急情報を送るために使うことができるかもしれない。そう考えるとモールス信号の継続使用は理屈にあわない。

(解答例)

E: さて、テツの話を聞いてみましょう。模範例を皆さんに伝えます。よく聞いて、自分の答えと比べてみてください。

T: それが本当であるように思えるかもしれないが、当時の技術の実態では音声伝送の使用はあまり望ましくはなかった。悪天候あるいは他の大気の攪乱(かくらん)が、音声伝送に認識できないほどの悪影響を与えることになった可能性がある。より単純な短点と長点のシステムがそのような悪条件の中ではより頼れるものだった。

■Challenge 2

E: よく聞いてください。次の発言に、最低 1 分間は、反対の意見を言ってください。皆さんの発話には、聞いた英文に書かれてあったいくつかの要点が含まれていないといけません。用意はいいですか。

T: モールス信号は全く役に立たない使い物にならない通信システムだった。だから、このシステムは絶えず変更の必要があった。「CQD」という頭字語の以前の使い方について考えてみよう。これは「SOS」に変更される必要があった。他のどんなものでも、あんなシステムよりはましだろう。とくに、無線放送が使える状態であれば。

E: それが本当だとは全く思わない。モールス信号のシステムは常に改良されていたが、その一方で、いくつかの点では無線よりも優れたものだった。「CQD」の使用をやめたのは、そのアルファベットの文字を打つための短点と頂点が伝送するのに時間が長くかかり過ぎたというそれだけの理由からだ。「SOS」への単純だが効果的な変更で、緊急時の警告を送るのがずっと早くなった。その符号の並びは単純そのもので、三つの短点と三つの長点、そして三つの短点から成り立っている。その単純さと送信の平易さによって、「SOS」が標準的な遭難信号として広く認識されることになった。無線はより詳細な情報を伝送することができるように思えるが、とくに海上では、種々の緊急事態には音声メッセージを認識できないくらい不明瞭にするような大気の状態が伴う可能性がある。短点と長点の単純なシステムがこの非常に深刻な欠点を補うのだ。モールス信号はある状況では実際とても効果的だと思う。

■ Closing Dialogue

E: 今月のレッスンで、より若い皆さんはモールス信号の起源について学ぶ機会を与られたと思うよ。モールス信号は 1999 年まで使われた後、“Global Maritime Distress and Safety System (海上における遭難及び安全に関する世界的な制度)”に移行したんだ。フランス海軍は 1997 年 1 月 31 日にモールス信号の使用をやめたのだけれど、その最後の送信はとても心動かされるものだったよ。

T: 本当かい。どんなメッセージなんだい。

E: こうだよ、そのまま言うよ。「全員に告ぐ。これは、永久の沈黙に入る前の、我らの最後の通信音である」水夫の人たちはモールス信号に本当に愛着を感じていたに違いないと思うんだ。今では、とにもかくにも、全て先端技術の高周波電話通信システムとあわせて、無線と衛星測位システムになっている。

T: 君の言いたいことはわかってるつもりだよ。もし沈みかけている船に乗っていたとしたら、利用できる中で最良の技術を求めるだろう。でも確かに、モールス信号にはある種の愛着を感じさせるものがあったね。

E: その通りだよ。あの短点と長点はインディジョーンズを思い出させてくれるなあ。

T: もう。君は肘掛け椅子に座ったままの冒険家だね。

E: それだけじゃないよ。君と僕は二人とも世界を旅してきた。それは本当の冒険だけれども、この英検のウェブサイトで皆さんと触れ合うことも、通信におけるまさしく本当の冒険だ。

T: よく言った、エドワード。さて、夕日に消えるとするか、インディジョーンズのようにね。

E: そうだね。では、次回まで。

T&E: またお会いしましょう。